



## 新倉 健（作曲・指揮）Ken NIIKURA

1951年神奈川県生まれ。作曲を福島雄次郎、金光威和雄の両氏に師事。主要作品にオペラ「ポラーノの広場」、オペラ「ウィンドウズ」、「Madrigal」、「音の絵本Ⅰ～Ⅳ」などがあります。また、NYタイムズにより好評され、ニューヨークを皮切りに米国各地で演奏された「広島が言わせる言葉」、ドイツで放送された「歌の祭り」など、その作品は海外でも高い評価を得ています。平成29年度鳥取県文化功労賞受賞。鳥取大学名誉教授。

### 略歴 Profile

昭和26年（1951年）神奈川県茅ヶ崎市に生まれる。

小学生の時から歌うこと、ハーモニカを吹くのが大好きな子どもで、3年生の頃からピアノを習い始める。

中学に入学して吹奏楽部に入部（中学ではバスケット部も兼部、吹奏楽部ではトランペットを担当）、3年生の先輩に感化を受け、クラシック音楽のレコードを聴くことに没頭する。初めて買ったレコードは、チャイコフスキー作曲「ピアノ協奏曲第1番」（トスカニーニ指揮、ホロヴィッツ独奏）。

中学2年生のときに近所に引っ越して来られた作曲家福島雄次郎先生の個人レッスンを受け、師の人間性と芸術家としての生きかたに感銘を受け作曲を始め夢中になる。

神奈川県立湘南高校では合唱部に所属、ますます作曲に夢中になり、数学の赤点の瀬戸際まで成績が落ちる。

昭和45年から51年まで、武蔵野音楽大学及び大学院にて学ぶ。作曲を金光威和雄氏に師事。大学院2年の時に、鈴木聡、喜納政一郎等と作曲グループ「樹（Ju）」を結成し作品発表の場を得る。

そのころ高校時代の友人が中心になって結成したアマチュアの劇団「籠鶯」で音楽を担当。サルトル作「嘔吐」、アヌイ作「泥棒たちの舞踏会」、サローヤン作「夕空晴れて」、山崎正和作「舟は帆舟よ」などの劇音楽を作曲・編曲した。昭和51年より神奈川県立山北高等学校に音楽教諭として勤務しながら、作曲グループ「樹」を中心に作曲活動を継続し、「音楽の友」誌において上野昇、石田一志等から高い評価を受ける。

昭和56年鳥取大学教育学部に助手として赴任、昭和59年「広島が言わせる言葉」のアメリカ初演がニューヨークタイムズにて高い評価を受け、「井上チェンバーアンサンブル」により米国各地で演奏される。

「ゴング・エカサマ・ブダヤ」、「Madrigal」、「歌の祭り」が日本作曲家協議会の事業「日本の作曲家」に採択され、楽譜及びCDなどが出版される。

平成10年にグループ樹10回記念オーケストラ作品展において、「ソングカグ」を発表（大友直人指揮、新星日本交響楽団）、翌平成11年「ギター・ジャリに寄せる三つのヴォカリーズ」がドイツ Mieroprint 社より出版される。

鳥取においては、バレエ「流し難幻想」、ミュージカル「茜 飛天」、「子うさぎましろのお話」の舞台作品のほか、常任指揮者である鳥取大学フィルハーモニー管弦楽団のために「星めぐりのためのエスキース第5番」を、指揮を担当している鳥取女声合唱団のために合唱オペレッタ「すいとんさん」、「ゆめくい小人」、ミュージカルコメディ「佐治谷ばなし：蟹のふんどし」、団員である鳥取男声合唱団のために男声合唱組曲「男の唄」、鳥取市少年少女合唱団のために合唱組曲「子どもの肖像」などの作品を作曲し上演している。

一方、宮沢賢治の作品に傾倒し、昭和56年から昭和63年まで、「銀河鉄道の夜」に触発された器楽作品のシリーズ「星めぐりのためのエスキース第1番～第6番」及び「ケンタウル祭の夜（オーケストラ作品）」を発表、さらに平成14年には宮沢賢治の原作によるオペラ「ポラーノの広場」を発表し高い評価を得る。

室内オペラ「窓—ウィンドウズ」（中村敬一台本）、宮沢賢治の童話による弦楽四重奏と朗読のためのシリーズを作曲。

## 主要作品

- Madrigal～6人の女声と打楽器奏者のための～〔1976〕
- ゴング・エカサマ・ブダヤ～クラリネット、ピアノ、打楽器のための～〔1979〕
- 広島が言わせる言葉～メソソプラノ、ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための～〔1982〕
- ギターンジャリに寄せる三つのヴォカリーズ～メソソプラノ、リコーダー、ハーブのための～〔1986〕
- 歌の祭り～独奏ヴィオラのための～〔1990〕
- ソンゴカグ第2番～オーケストラのための～〔1998〕
- 樹下～ヴィオラ、ハーブ、弦楽オーケストラのための～〔2000〕
- オペラ「ポラーノの広場」〔2002〕
- 橋～ギターソロのための～〔2003〕
- 同声合唱とピアノのためのミュージカルコメディ「佐治谷嘶」〔2008〕